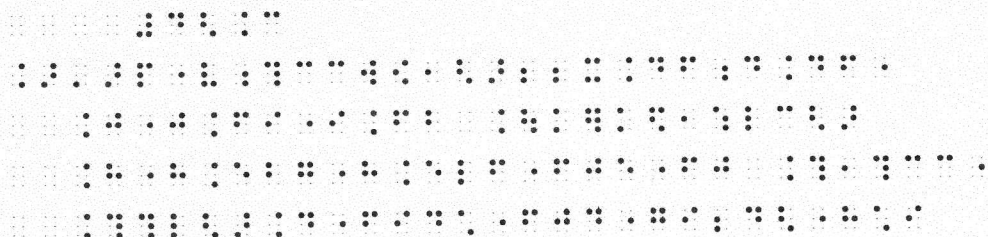
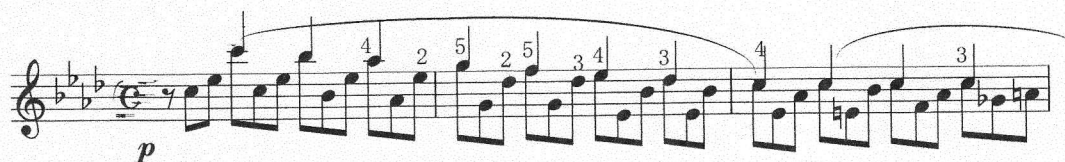


2006年1月21日
楽譜点訳の会「星」

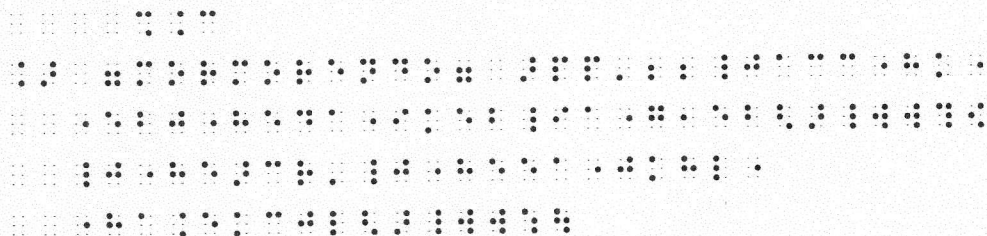
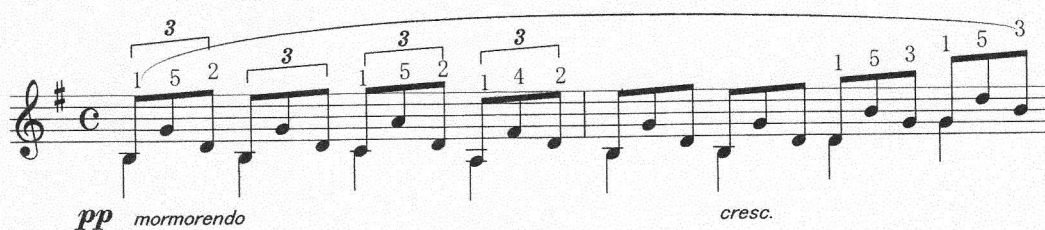
部分けとステムの使い分け

① 基本的には部分けで記す

譜例：チェルニー 50 番 No. 45より



譜例：ブルグミュラー 25 の練習曲 No. 7より



② ステム記号で記す

- ・部分けにすると煩雑になる場合
- ・部分けでは書き表せない場合

譜例：ショパン バラード No.1より

espr.

dolce

p

1 5 5 4 5

譜例：ショパン バラードNo. 4 より

p

cresc.

4 5 5 4 5 3 3 4 3 5 4 5 4

強弱記号（松葉）

長い松葉と短い松葉記号が同じ場所にある場合の記し方

- ・長い松葉の開きのあと続けて 3 の点 を 2 つ記し、
止めは 3・4・5 の点と 3 の点 とする。
また、これについては、注または凡例で説明をする。

譜例：シモネッティ マドリガルより

